

認知症を予防しよう！

今年度は、認知症をテーマにご紹介しています。認知症の対策には支え合いが大切。認知症について正しい知識をもち、認知症の方やその家族、だれもが暮らしやすい地域づくりに役立ててください。

今月は、認知症の種類についてです。認知症が疑われる場合は、専門医（内科、神経内科、精神科）へ相談してください。



認知症ストップ作戦

No.4

認知症は数十種類



認知症という病気の種類はひとつだけ？

認知症は、引き起こす原因によって数十種類があります。そのなかでも、「アルツハイマー型認知症」、「血管性認知症」、「レビー小体型認知症」は3大認知症と言われています。



● 認知症を引き起こす様々な病気

脳の細胞が大量に死ぬことで認知症は起こります。脳の細胞が死ぬ原因は様々で、3大認知症の「アルツハイマー型認知症」と「レビー小体型認知症」は脳の変性によるもの、「血管性認知症」は脳血管障害によるものです。

その他にも、代謝・内分泌性、感染性、外傷性などによる病気で脳の細胞が大量に死に、認知症を引き起こすことがあります。

■ 認知症を引き起こす主な病気

脳の変性によるもの	アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症
脳血管障害によるもの	血管性認知症
代謝・内分泌性によるもの	肝性脳症、低血糖性脳症
感染性によるもの	エイズ脳症、脳梅毒（進行麻痺）
外傷性によるもの	頭部外傷、ボクサー脳症
その他	脳腫瘍、ビタミン欠乏症、アルコール中毒



認知症と間違えやすい「うつ病」や「せん妄」

高齢期は、社会や家庭での役割を失ったり、近親者との死別など、喪失体験が多い時期のため「うつ病」になりやすいといえます。「うつ病」により生じる一時的な記憶力の低下や運動機能の低下が、認知症の症状と間違えられるケースがあります。

また、大きな手術による入院などでも急性の脳機能障害が起こり、一時的に幻覚や妄想があらわれる「せ

ん妄」も、認知症と混同されることがあります。また、脳に過剰な体液（髄液）がたまることで認知症と似た症状がでることもあります。

正しい診断と治療のためにも、認知症が疑われる症状が見られたら、早めに専門医を受診することが重要です。



おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する相談機関です。

認知症の方やその家族、また自身の認知症予防のために「認知症サポーター養成講座」を受けて、認知症サポーターになりませんか？ご希望の方は、福祉課へご相談ください。

多久市地域包括支援センター
（多久市役所 福祉課内）

☎ 75-6033